令和７年度　第１回　介護サービス包括型指定共同生活援助事業所笠岡学園
地域連携推進会議

日　時：令和８年３月１２日（木）１０：００～１２：１０
場　所：グループホームよしはま
出席者：構成員：利用者代表　K氏、家族代表　T氏、地域代表　M氏、地域代表　I氏、
福祉施設関係　Y氏、市町村担当　S氏
事業所職員：管理者、主任、M支援員、事務局参事

１　開　会　管理者挨拶
・今日の流れ説明、自己紹介、施設見学、事業会パンフレットにて事業所説明

２　議　題
（１）地域連携推進会議の目的
・本会議設置の趣旨（管理者より）
地域に開かれた事業運営　「事業所や利用者を知ってもらい、施設で生活されていても地域の一員として生活していくこと」
外部の視点の導入　「利用者と地域の方々との関係性を構築し、連携を築いていく。」

（２）利用者の日常生活について
・本事業所のM支援員より説明（特性・人数など）
・家のような雰囲気の中、家庭的な空間で地域に根付いた生活を営む場所である。
・利用者の１日の流れ（平日・休日）
・日中サービス支援型グループホームとの違い（年齢、障害の比率、将来に向けて）
・日中は事業所に通う事が原則となる。一般就労～Ｂ型の作業等仕事に行く等様々。
・その人の持っている力を出来るだけ引き出せるよう自立した生活が送れるように支援している。（成育歴も大切にしている）
・会話を大切にしている。思いを受け止めて共感する。
・職員は２名携帯電話を所持しており３６５日２４時間体制で何かある時には動けるようにしている。
・世話人の説明（勤務形態・仕事内容・職員との連携）
・課題として、お金の使い方、お菓子の食べ過ぎや余暇の過ごし方がある。

（３）地域との関わりについて
・選挙は金浦中学校へ投票に行っている。
・すぐ近くのセブンイレブンでは、ヘルプマークを市から頂き、買い物に行く時には身に付けておき、困った時に助けてもらえる体制をとっている。また、連絡先の交換もしており何かあれば連絡を取り合うようにしている。
・利用者の皆さんは地域のお祭りの「ひったか」を楽しみにしている。

（４）利用者の権利擁護の取り組みについて
・法人として虐待防止委員会を設置しており、研修会や勉強会は随時行っている。その

他リスク研修・接遇研修・避難訓練等も行っている。

（5）その他意見

市町村担当　Ｓ氏：

・グループホームでは事業所が利用者の金銭管理を行っていると聞いたが、介護サービスの施設になると金銭管理をしてもらえなくなる。介護に切り替えの際に、困って後見人申請をして来られる方が年々増加している。現在、市では増加に伴い決定まで半年程待って貰っている状態なので金銭管理を法的な行政に切り替えを早めにお願いしたい。

・グループホームで良くある事が、他にホームが少ないので利用者本人やご家族がホームに不満があっても言いにくい状況もあると聞く。しっかりと思いを受け止めてあげて欲しい。

・また、市内では女性のグループホームが足りない状況である。ぜひ女性ホームを作ってもらいたい。

地域代表　Ｉ氏

・買い物が出来る所は少ないが、利用者の皆が好きな物を買えていると聞いて良いなと思いました。

３　閉会

管理者挨拶、事務局参事挨拶